長沼町総合振興計画審議会　教育部会（第２回）議事概要

開催日時：平成２２年１２月２４日（金）9:00～10:50

開催場所：長沼町役場　第１会議室

【出席者】

＜審議会委員＞５名

谷川部会長、鈴木（彩）委員、服部委員、水野委員、桃野委員

＜長沼町役場総務政策課＞

高井企画官

【会議録】

１　開会

谷川部会長

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。計画の案につきまして、引き続きよろしくご審議をお願いいたします。

２　議事（谷川部会長が議長となり進行）

谷川部会長

事務局から説明があればどうぞ。

高井企画官

【資料について説明】

谷川部会長

前回は第６章について議論したが、この章に関して、おさらいも含め追加の意見があれば。第４節「高校教育の充実」について、もしも長沼から高校が無くなったら大ごとである。「主な施策」のところを、もう少し厚みを持たせたいと思う。

桃野委員

長沼町の中学生のうち、約３割が町外へ進学している。「近いから」選ぶのではなく、目的によって高校を選んでいる生徒もいる。農家の子が岩見沢農業高校に進学するなど。

また、長沼高校では進学に困るかもしれないなどの懸念を持つ親もいる。

水野委員

南中を卒業した１３名のうち、長沼高校に進学したのは１人だけと聞いた。岩見沢農業高校に４名くらい進学し、その他、札幌、恵庭、北広島等へ進学したと聞いている。

谷川部会長

何か目的を持って長沼高校へ進学する、という状況にすることも考えていかねばならない。生活科が残っていて、食品加工に関する授業などがあればそれが見込めたと思う。

例えば、吹奏楽なら長沼高校、というような特色を出し、大学にも優先的に推薦で進学できるような。

桃野委員

高校に何か特色がないと、子どもたちも夢を持てないと思う。今、高校は実質的に義務教育の延長となっている。クラブや講座等で大学と連携するなど、特色を持つことで魅力を持たせることも考えられる。

「長沼高校では進学が難しい」というイメージがあるようだ。進学や就職といった、高校の「次」につながるものが必要。この次につながることを売りにすれば、地域の人も目線が変わる。親の気持ちとしては、「優先的に○○大学に行けます」とあるのは魅力である。

谷川部会長

第１期生涯学習推進計画の１３頁に「高等教育機関との連携」とあるが、これからは「大学との連携」が必要。また、それ以外でも、部活で農業クラブがあれば、普及センターや４Ｈクラブと連携なども考えられる。

教職員だけでは限界があるので、町民の方も「長沼高校をどうするか」を考えてほしいと思う。例えば「退職したらボランティアとして高校でゴルフを教えたい」と考える人がいて、それを実践できれば、多様なニーズに応えることもできるのではないか。

服部委員

「長沼高校では進学が難しい」と考えるのは、生徒本人より親のほうではないか。「長沼高校に行きなさい」と言える親が何人いるだろうか。

鈴木委員

私の祖母は、私に北広島や札幌の高校を勧めた。

水野委員

町外から、「長沼高校に行きたい」と思わせるような高校にしないと。「次」にどうつながるかが重要。

鈴木委員

長沼高校の進学率は以前より上がっている。私が高校進学するころには、学力のレベルが高い同級生はだいたい他の高校へ行ったが、中には「制服がかわいい」という理由で長沼高校に進学した同級生もいた。また、長沼高校には給食があるのも一つの特徴である。

谷川部会長

高校も小中学校同様、地域の支援が必要であり、必要としていることやそれに対応できるボランティアをつなげるコーディネーターが必要と考える。

水野委員

第６節の「文化の振興」について、第４期の計画を策定する際は郷土資料館建設の是非について話があったが、私は維持管理費等の観点から反対した記憶がある。そのとき、バーチャル的にパソコンで見られるようにしてはどうかと意見した。実際に見たいのならば、貯蔵してあるところに行けば良いのであって、あえて立派な建物を建てなくてもよいと考える。

桃野委員

アート協会のパンフレットを町内施設に置いているが、手に取った人が喜んでいたのを見たことがある。いい取り組みと思った。

資料館や文化会館など整備すると、維持管理費用がかなりかかる。集客数を考えるとマイナスになるだろう。（計画の素案には整備について触れていないが、）もしも整備するのならば、規模を縮小して、ここにしかないものを整備し集客を見込めるものにしないといけないのではないか。

谷川部会長

高齢者や子どもは、自力で札幌に行けない。音響施設や舞台の大きさなど、町民会館では物足りない。子供たちに本物を見せたいと思う。私としては、文化ホールや資料館の整備を

計画に位置づけたい思いはある。

谷川部会長

第６章以外の確認について、私の意見は別添資料のとおり。特に、第７章第２節「コミュニティ活動の促進」について、住民の主体的な地域活動に発展させるため、行政区という表現ではなく「自治会」と表現すべきと考える。

自治会長は自分たちで決めるもので、行政区長のように町長から委嘱状をもらうものではない。長沼町では、行政区と自治会がイコールになっている。

桃野委員

都会では、行政区という言葉をほとんど使っていない。町民の意識改革も必要ではないか。

服部委員

自分たちで行政区長を決めている。行政の区長と表現しているのは、このあたりでは長沼だけである。

桃野委員

区長は本来、町で指名し委嘱するもの。この町の行政区は、自治会としての特色が強い。

服部委員

谷川部会長配付資料でフラワータウン活動について触れているが、花いっぱい運動によってボランティア、生涯学習などにつながり、やって良かったと感じている。ただ、だんだん不満や苦情が多くなっているのも事実。

水野委員

「なぜ花いっぱい運動を始めたか」が伝わっていない。花いっぱい運動をすることになった経過が伝わらず、ただ「町から花を植えろと連絡が来ている」とだけ伝わっている状況。主催しているのは、町ではなく、民の団体であるフラワータウン推進協議会なのだが。

農村環境維持のため皆さん頑張りましょう、という目的がうまく伝わらなかったようだ。そのため、「なぜ我々が自分の居住区以外にある幹線道路沿いに花を植えるんだ？」ということに疑問や不満が生じるようだ。

行政区長は毎年代わるので、会合があるたびに毎年目的を伝えていくべきではないか。

桃野委員

皆で協力して花を植えることで、町に入ってくる人たちに「すばらしい町だな」と思ってもらえるようにするのも目的の一つである。行政区の地域担当職員に、花いっぱい運動の目的など、そういう話もしてほしいと思う。

谷川部会長

花いっぱい運動は本来住民の自主的な活動であり、自主的な活動を促進するためにも「自治会」という表現が好ましいと思う。

また、第４章第３節「地域福祉の増進」について、陽風学園と地域の連携をもっと進めていくべきではないかと思う。

谷川部会長

教育部会はこれで一通りの区切りをつけるが、必要があれば再度部会を行うこととしたい。

（一同了解）